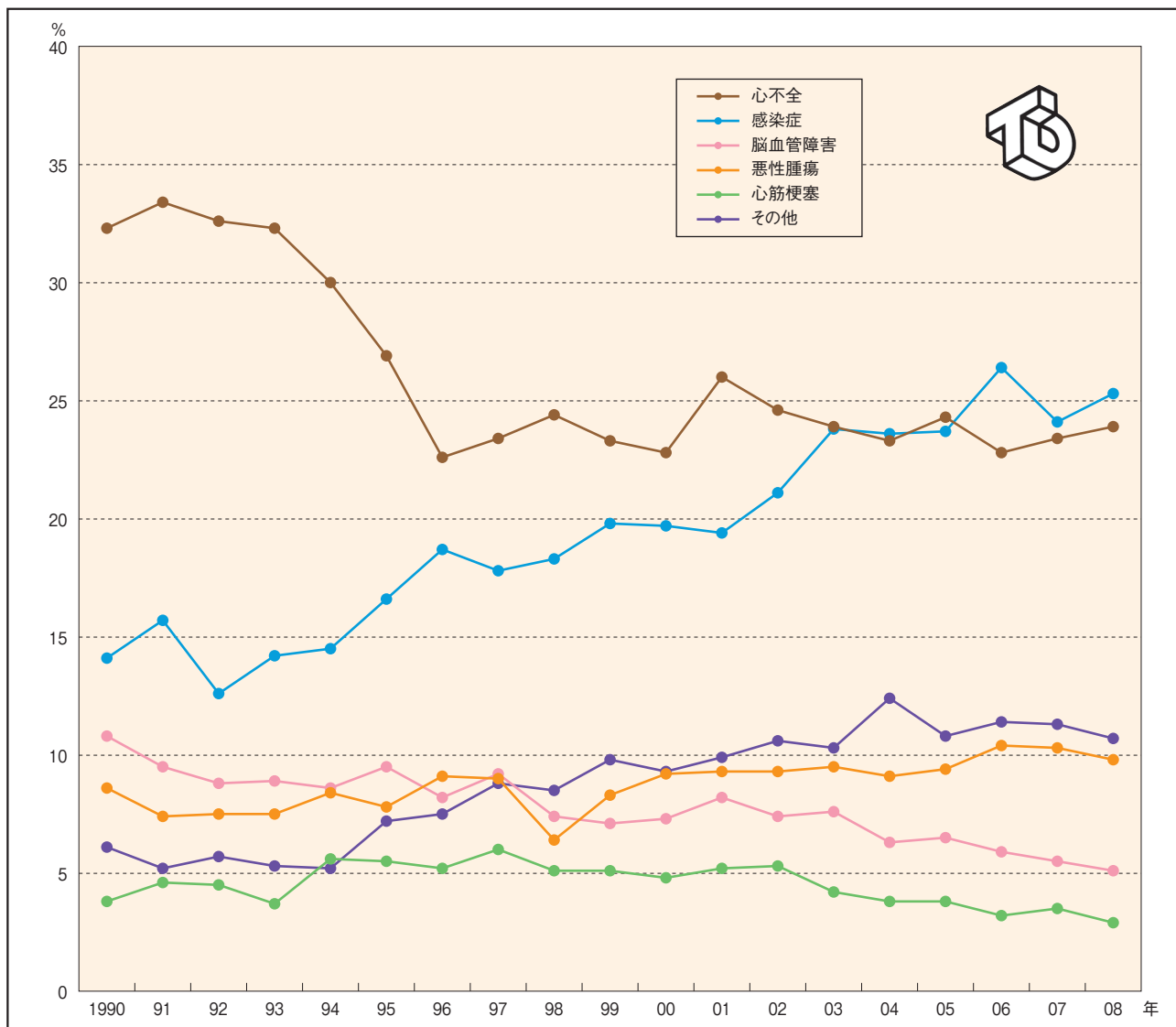


5) 死亡原因

(2) 導入年死亡患者死亡原因の推移 (図表17)



年	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
心不全	32.3	33.4	32.6	32.3	30.0	26.9	22.6	23.4	24.4	23.3	22.8	26.0	24.6	23.9	23.3	24.3	22.8	23.4	23.9
感染症	14.1	15.7	12.6	14.2	14.5	16.6	18.7	17.8	18.3	19.8	19.7	19.4	21.1	23.8	23.6	23.7	26.4	24.1	25.3
脳血管障害	10.8	9.5	8.8	8.9	8.6	9.5	8.2	9.2	7.4	7.1	7.3	8.2	7.4	7.6	6.3	6.5	5.9	5.5	5.1
悪性腫瘍	8.6	7.4	7.5	7.5	8.4	7.8	9.1	9.0	6.4	8.3	9.2	9.3	9.3	9.5	9.1	9.4	10.4	10.3	9.8
心筋梗塞	3.8	4.6	4.5	3.7	5.6	5.5	5.2	6.0	5.1	5.1	4.8	5.2	5.3	4.2	3.8	3.8	3.2	3.5	2.9
その他	6.1	5.2	5.7	5.3	5.2	7.2	7.5	8.8	8.5	9.8	9.3	9.9	10.6	10.3	12.4	10.8	11.4	11.3	10.7

患者調査による集計

解説

透析に新規導入された年に死亡した患者の死亡原因の推移を図表に示す。2004年、2006年、2007年と同様に2008年でも感染症が25.3%で第一位であった。心不全は第二位で23.9%、第三位はその他で10.7%、第四位が悪性腫瘍で9.8%、第五位は脳血管障害で5.1%であった。性別によって異なるが、全体的な傾向として明らかなことは感染症が原因で死亡する患者の増加である。心不全死は1990年から1996年にかけて急速に減少した後、最近では大した増減もなく安定した推移である。悪性腫瘍は10%近辺で推移している。脳血管障害は経年的に減少していく傾向がある。